

単元名 【旧】生きもの なかよし 大作せん

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 友達と一緒に生き物の世話をしながら、その成長の喜びを味わい、生き物も自分たちと同じように成長していることに気付くことができる。
 (2) 生き物のすみやすい環境を考えて世話をしたり、分からないことを人に相談したりしながら、自分たちで工夫して活動することができる。
 (3) いろいろな生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付き、大切に扱おうとする。

標準的な展開例

02060107_001

【準備等】 生き物の本、図鑑、まち探検で使った絵地図、付箋、網、虫かご、バケツ、飼育箱、水槽、エアポンプ、虫めがね、なりきりマイク、記録カード等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生き物を見付けたり、捕まえたりした経験を伝え合い、生き物を探しに行く場所を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> どこにどんな生き物がいたか、伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> 校庭…ショウリョウバッタ、ナナホシテントウ、ダンゴムシ、カタツムリ 公園の池…ザリガニ、ヤゴ、オタマジャクシ 畑…モンシロチョウ、アゲハチョウの幼虫 等 ★生き物を探しに行く場所を決めよう ○探す生き物の種類や、探しに行く場所を考える。 ○生き物を探しに行く計画を立て、自分のめあてをもつ。 <p>2, 3 生き物を探しに行き、気付いたことを記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生き物を探しに行こう ○生き物探しのルールやマナーを確認する。 ○生き物を探しに行く。 ○気付いたことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> 公園の池でザリガニを見付けました。石の間に隠れていました。○○公園の○○さんに捕まえ方を聞いたので、今度は餌と網を持って、捕まえに行きたいです。 <p>4 生き物を探したことを振り返って、生き物を捕まえる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生きものを捕まえる計画を立てよう ○捕まえてみたい生き物ごとにグループに分かれて、計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 捕まえる生き物…ザリガニ 捕まえる場所…池の中 捕まえる方法…網で捕まえる 持ち物…網、餌、虫かご、長靴、帽子 約束…立ち入り禁止の所は入らない ○生き物を捕まえに行くときの約束を、学級全体で確認する。 <p>5, 6 友達と協力して生き物を捕まえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生き物を捕まえよう ○安全に気を付けて生き物を捕まえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元前から、意識的に生き物のことを話題にしたり、生き物の本を読み聞かせしたりして児童の興味や関心を高めておく。 ・教科書P. 34, 35のイラストや写真を見ながら自分たちの地域に置き換えて生き物のいる場所を考えさせるとよい。 ・まち探検の絵地図を掲示して、場所を確認させる。生き物の名前を付箋に書いて、絵地図に貼り付けるようにしてもよい。 ・校庭や近所の公園、雑木林など、地域の実態に合わせて場所を決めるようにする。 ・探す生き物の種類と場所は、どちらを先に決めさせてもよい。目的をもって生き物探しをさせる。 ・生き物を捕まえる活動への意欲を高め、課題がもてるよう、意図的に生き物を捕まえるための道具の準備はさせず、生き物探しに出かけさせる。 ・地域の人や保護者など、生き物に詳しい人（生き物名人）への協力を依頼してもよい。 【評】 生き物探しの計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・事前に生き物がいる場所を把握しておき、自分で生き物を見つけられない児童にアドバイスする。 ・教科書P. 35「やくそく」を活用し、水辺での安全な行動の仕方や、危険な生き物の避け方などを指導する。 ・生き物のすみかを荒らさないように伝えておく。 ・生き物のすんでいる場所や、生き物の動きに目を向けられるような声がけをする。 ・生き物を捕まえるためには準備が不十分であることに気付かせ、課題をもたせるようにする。 ・生き物を見付けた場所や生き物の様子、思ったことを記録カードにかかせる。 ・児童の生き物を捕まえたいという思いに触れ安全に捕まえるために必要な準備を考えさせる。 ・生き物を見つけた場所や、見つけたときの生き物の様子を想起させ、捕まえる方法や連れて帰る方法を考えさせる。 ・生き物が苦手な児童は、ペアやグループで行動できるように配慮する。 ・必要に応じて生き物の捕まえ方を生き物名人に質問できるように協力を依頼しておく。 ・汚れてもよい服装や着替えなどの準備を、通信等で家庭に依頼しておくようにする。 ・場所に応じた安全の指導を徹底する。 ・産まれたばかりの生き物や弱っている生き物は持ち帰らず、数も必要な分だけにとどめるように指導する。 【評】 生き物を捕まえる計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童の安全確保のため、ガイドボランティアの人や保護者の協力が得られるとよい。 ・生き物を捕まえたときに、「どこにいたの」

- 生き物のすみかと餌を整える。

7 生き物を捕まえたことを振り返って、気付いたことを記録カードにかいて伝え合う。

- 本や図鑑で、捕まえた生き物の種類を確認する。

★生き物を捕まえたことを伝え合おう

- 捕まえたときのことや、気付いたことを伝え合う。
 - ・池でザリガニを捕まえました。急に後ろに逃げて、捕まえるのが大変でした。
 - ・大きな石をどかして、ダンゴムシを捕まえました。枯れ葉の布団をかぶって寝ているみたいでした。

- 生き物を捕まえたことを振り返って、気付いたことを記録カードにかく。

8 生き物を飼い続けるために必要な世話の仕方を考え、記録カードにかいて伝え合う。

★生き物に合った世話の仕方を工夫しよう

- 生き物になりきって、今の気持ちを伝え合う。
 - ・ころころ転がって、目が回ってしまいます。(ダンゴムシ)
 - ・おなかですいて、力が出ません。何か食べたいです。(ザリガニ)
 - ・たくさん遊んで疲れてしまいました。ゆっくり休める家がほしいです。(カタツムリ)
- すんでいた場所を確認したり、詳しい人に聞いたりして世話の仕方の工夫を記録カードにかく。

- 世話の仕方について分かったことを伝え合う。

- ・ヤゴが羽化するためには、水槽に水を入れて、30センチくらいの枝を立てるといいことが、生き物名人さんに聞いて分かりました。
- ・ダンゴムシがすんでいたところの土を触ったら、じめじめしていました。すんでいたところと同じように、土を湿らせてあげようと思います。

9 すみかをつくり、生き物に応じた世話をして、気付いたことを記録カードにかいたり伝え合ったりする。(常時活動を含む)

★生き物の世話をしよう

- すみかをつくったり、餌を与えたりする。

「何をしていたの」など、生き物との距離感を縮められるような声がけをする。

- ・すみかづくりの活動の参考資料として、捕まえる活動の様子をデジタルカメラで撮影しておくといよい。
 - ・捕まえた生き物は放置せず、すぐに簡単なすみかや餌を用意させる。
- 【評】生き物を捕まえる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教室に用意した生き物の本や図鑑を活用し、捕まえた生き物の種類を確認してから、記録カードをかかせるようにする。ダンゴムシとワラジムシ、アゲハとキアゲハの幼虫等、似ている生き物がいるので、よく確認させる。
- ・生き物の色や形、様子などの特徴から、名前を付けて見分けられるようにし、飼育する生き物に愛着をもたせるとよい。

- ・捕まえたときの生き物の様子を、言葉だけでなく、動作化して伝え合わせるとよい。
 - ・「○○みたい」と例えて表現している児童がいたら称賛し、全体に広げる。
 - ・他の生き物と比較させ、それぞれの生き物に合ったすみかがあることを捉えさせる。
 - ・何を捕まえたのか、どこにいたのか、どんな様子だったのかを記録カードにかかせる。
- 【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・世話の仕方には、すみかづくりと餌やりの二つの視点があることを押さえる。

- ・教師が飼育ケースになりきりマイクを向けながら児童に生き物の気持ちをインタビューし発表させる。
 - ・教師が「どこから来ましたか」「今のすみかはどうですか」「お食事はおいしいですか」など、世話の仕方にかかわるインタビューをして、児童に生き物になりきって答させる。
 - ・実際に土を触ったり目線を落としたりするなど、生き物が生息していた場所の特徴を諸感覚を使って捉えさせ、生き物の好む環境に思いを巡らせながら世話の仕方を工夫させる。
 - ・捕まえたときの写真や、教科書P.42,43「生きもの図かん」も参考にさせる。
 - ・すみかづくりや餌やりについて分かったことを絵や文で記録カードにかかせる。
 - ・教科書P.111の「べんりてちょう」を活用する。
 - ・生き物名人に質問することを通して、電話やファックスの活用の仕方を指導し、通信ツールを使うためのスキルを養いたい。
 - ・休み時間などを使って、上級生に尋ねる活動を意図的に入れるようにするとよい。
 - ・違う種類の生き物の世話の仕方を知ることによってそれぞれの生き物にあった世話の仕方があることに気付かせる。
 - ・生息していた環境に近い条件で飼うことが適切であることに気づき、それを表現している児童を取り上げ、全体に広げる。
- 【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・同じ生き物を飼育する児童同士で数人のグループをつくり、世話をさせる。
 - ・生活科の時間だけでなく、休み時間などにも観察と世話をさせ、生き物の変化や成長についての気づきを促すようにする。
 - ・「暑くないですか」「お食事はおいしいですか」などと教師が児童にインタビューをすることで、世話の仕方を見直す視点を与える。
 - ・本や図鑑から得られる情報を確かめてみるよう声がけをする。

<p>○生き物の世話をしたことや、観察して気付いたことを記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリ太ににぼしをあげたら、喜んで食べていました。食パンよりも、にぼしの方が好きみたいです。（ザリガニ） ・コロちゃんは手に乗せるとコロと丸くなります。でも、少しすると歩きます。足の数を数えたら、14本でした。（ダンゴムシ） <p>○生き物の変化や成長の様子、世話の仕方について気付いたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシの足は、14本もあるんですね。ぼくのヤゴの足は6本です。 ・ダンゴムシは枯葉やキャベツを食べますが、ザリガニはソーセージやにぼしを食べることが分かりました。食べる物が全然違うので、驚きました。 <p>10, 11 「生きもののひろば」を開く計画を立てて、準備をする。</p> <p>★「生きもののひろば」の準備をしよう</p> <p>○招待する人を決める。</p> <p>○これまでの飼育のことを振り返り、伝えたいこととその方法をグループで決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニの成長を劇にして発表したいです。 ・ヤゴの世話ががんばったことを新聞にまとめて発表したいです。 <p>○作品をつくったり、発表の練習をしたりして「生きもののひろば」の準備をする。</p> <p>12 「生きもののひろば」を開き、活動の振り返りをする。</p> <p>★「生きもののひろば」を開こう</p> <p>○計画に従って「生きもののひろば」を開く。</p> <p>○生き物を飼育する活動や「生きもののひろば」を開いたことを振り返り、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは、ザリガニが触れませんでした。が、〇〇さんに持ち方を教えてもらって触れるようになりました。今は一人で水も替えられます。 ・ヤゴはトンボになることが分かりました。すむところも餌も全然違うので不思議だなと思います。 <p>○飼ってきた生き物をこれからどうしたいか、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピョン吉にとって、広い田んぼの方が気持ちがいいと思うので、元いた田んぼに返したいです。（カエル） ・ザリ太は脱皮したばかりなので、これからも家で飼いつづけたいです。（ザリガニ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に生き物の観察ができるように、児童の手の届く場所に記録カードを置いておく。 ・気付きを共有できるように、教室の掲示板上に記録カードを掲示しておくとうい。 ・生き物が死んでしまった場合には、その死にきちんと向き合わせ、どんな生き物にも命があることを理解させる。また、死んでしまった原因を考えさせ、飼育方法を見直すきっかけとする。 ・自分の飼っている生き物と、友達の飼っている生き物の変化や成長の様子、世話の仕方を比べて伝え合わせることで、生き物の特徴に気付かせる。 <p>【評】すみかをつくったり世話をしたりする活動や、記録カードへの表現を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生や上級生、家の人、地域の人など、児童の思いや学校の実態に合わせて招待する人を決める。 ・今までかきとめてきた記録カードを手がかりに考えさせる。 ・教科書P. 40, 41やP114, 115の「べんりてちょう」を参考に、多様な表現方法を紹介する。他にも、劇、紙芝居、工作、クイズ、歌などの方法も考えられる。 ・招待状や案内ポスターをつくとよい。 ・飼育ケースの周りに作品を置いて、生き物ごとにブースをつくる。 <p>【評】「生きもののひろば」の計画と準備を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明役や案内役などの係は、一定時間ごとに交代しながら発表させるようにする。 ・招待した人から質問を受けたり、アンケートに答えてもらったりするなど、双方向のやり取りができるようにするとよい。 ・今までの飼育活動の中で生き物の変化や成長について分かったことや、自分ができるようになったことも伝え合わせる。 ・生き物のことを考えて、継続的に飼育することができるようになった自分や友達のよさに気付かせる。 <p>【評】活動の振り返りを通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これからどんなところにすみたいと思いますか」などと問いかけ、世話をしてきた生き物の立場になって考えるよう声がけをする。 ・アメリカザリガニなど、外来生物を飼育している際には、安易に元いた場所に帰さないように配慮し、指導する。
--	---

【 備 考 】